

# あなたのスキルは社会に役立つ

## エンジニアだからできる社会貢献

東日本大震災の発生直後に発足したHack For Japanや「市民が主体となって自分たちの街の課題を技術で解決するコミュニティ作り支援」を掲げるCode for Japanのメンバーを始めとして、日本各地で技術を活用した社会貢献活動が行われています。本連載では、防災や減災、地域の活性化や課題解決、そして人材育成など、「エンジニアだからできる社会貢献」の取り組みをお届けします。

第141回

### AI技術と国会議事録が融合した 「国会議事録検索(The Diet Search)プラグイン」

●シニアプログラミングネットワーク代表 小泉 勝志郎(こいずみ かつしろう)

近年、AI技術は急速に進化を遂げており、その中でも生成系AIはとくに注目を浴びています。今回は、生成系AIの中でも話題のChatGPTを活用した、まさに革新的なプロジェクトを紹介します。それは、株式会社自動処理が開発したChatGPTプラグイン「国会議事録検索(The Diet Search)プラグイン」です。AI技術と政治が交差する画期的な取り組みとして、大量の国会議事録から関連性の高い情報を探し出すというものです。国会の議論が一人一人の市民にも身近に感じられる時代の幕開けとなるかもしれません！

今回、株式会社自動処理の代表取締役である高木祐介氏にインタビューをしました。プラグイン開発の舞台裏と未来の可能性に迫ります。

#### 開発背景：社会に貢献するChatGPTプラグインの誕生

今や、人工知能(AI)技術は私たちの生活に欠かせない存在となっています。その中でも、OpenAIによって開発された言語理解AIであるChatGPTは、自然言語の理解と生成能力を活かし、数多くの応用分野で活躍しています。

高木氏は、以前からこれらの進歩に注目していました。「AIについては数年開発を実施してきた。ChatGPTについては去年の11月のリリースタイミングで使ってみて、その可能性に大いに感銘を受けたんです。毎日実業務に使えるよ

うに試行錯誤を重ね、3月くらいからはAIのニュースを毎日調査し、情報発信も始めました」と語ります。

その中で、ChatGPTがプラグインを開発できる機能を実装することを知り、「これは自分で作ってみよう」と決意したのだそうです。既存のAPIをただ組み合わせるだけではなく、本当に社会に役立つ新たな価値を創造することを目指した結果生まれたのが、「国会議事録検索(The Diet Search)プラグイン」です。生成系AIとオープンデータが融合し、国会の議論を広く一般に開放するという新たな道が切り開かれたのです。

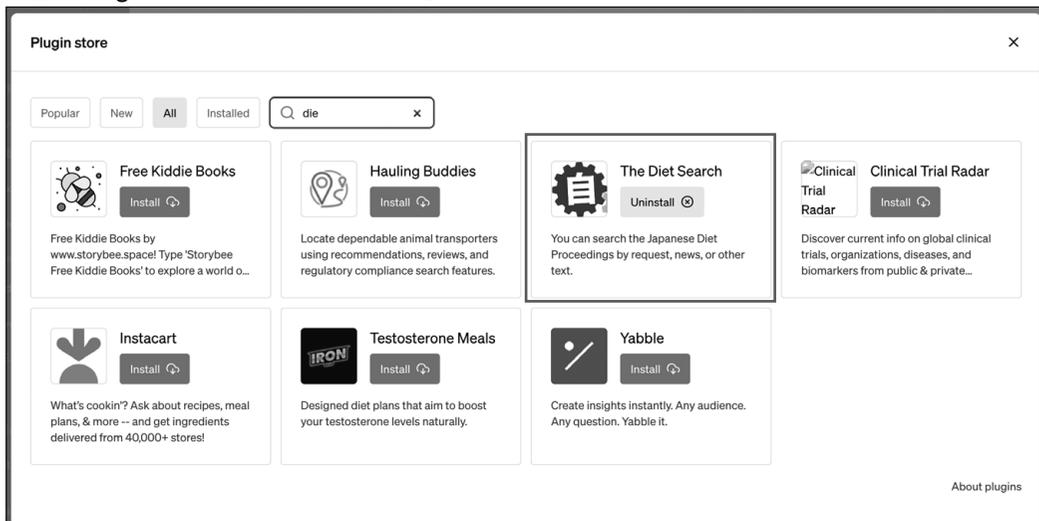
国会議事録検索(The Diet Search)プラグインはChatGPTのGPT-4のプラグインから使用可能です。Plugin storeで「diet」と検索し、インストールすると利用できます(図1)。なお、国会議事録検索(The Diet Search)プラグイン自体は無料ですが、プラグインを利用するにはChatGPTの有料ユーザーである必要があります。

#### プラグイン選択の理由と挑戦

小泉：では、プラグインの紹介から始めていただけますか？

高木：6月16日にChatGPTのプラグインとして「国会議事録検索(The Diet Search)プラグ

◆ 図1 Plugin storeでの「The Diet Search」



イン」を公開しました。これは、国民の声と国会議事録をつなげるしくみを提供し、市民が疑問に思ったことが国会でどのように議論されているかを調査できるシステムです。

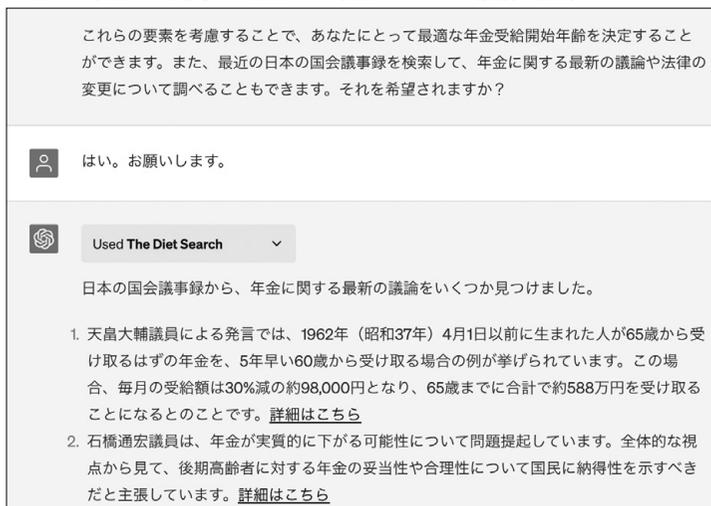
図2は具体的な使用例です。「60歳で年金をもらうか、65歳で年金をもらうか迷っている」という質問に対して、国会で議論された事例を紹介しています<sup>注1)</sup>。

たとえば年金受給の選択について相談したら、年金を受けるルールを決める際にはいくつかの要素を考慮する必要がありますと教えてくれます。それで、最近の国会の議事録を検索して、年金について最新の議論や法律の変更を調べることができます。

注1) ここでやっているChatGPTとのやりとりの全文は、次のURLから確認できます。

[https://chat.openai.com/share/617e93fd-b18a-456f-ade1-8326f725b02a?fbclid=IwAR19BNjl4178gdxz-REUKq60lmVg4E7a2o2MJYAsdI-IuXmt\\_Z3Py51IM0](https://chat.openai.com/share/617e93fd-b18a-456f-ade1-8326f725b02a?fbclid=IwAR19BNjl4178gdxz-REUKq60lmVg4E7a2o2MJYAsdI-IuXmt_Z3Py51IM0)

◆ 図2 年金への質問から国会での年金についての議論を紹介



小泉：国会と関係ないような日常的に思う疑問から、国会でどのような議論がされたのかを知ることができるなんて、本当にすばらしい行動ですね。

高木：そうですね、日常の素朴な疑問から国会でどういう議論がされているのか興味が持てるんですよ。

小泉：今回サービスではなくプラグインを採用しているのはなぜでしょうか。



高木：OpenAIからChatGPTプラグインが公開され、ChatGPTに外部データを取り込んで実行できるようになりました。それを見て、私は「プラグインを一度試してみたい」と思ったんですよ。それ以外にも、我々が作っている意見募集のシステムである「IDEABOX」<sup>注2</sup>は市民や行政の人々と対話するプラットフォームなので、将来的に関連付けることができると思いました。

そして、ChatGPTプラグインは最初に80個くらい公開されたんですけど、それがほとんどイケてなかった。単なる昔ながらのしくみで、なんとなく自社で持っているAPIとつなげた、みたいな状況。だから、何か新しい使い方ができるものを出したら、これはみんな喜んでくれるかなと思い、そこで作ったんです。

システムはまだ発展途上ですが、AIのチャットボットは24時間稼働しているわけですから、このシステムを使えば、国会の議論をすぐに調べることができます。

小泉：プラグインだとChatGPT側で多言語対応もやってくれますからね。

高木：海外の方でも日本の国会の情報をちゃんと調べられるので、これは非常にいいなと。

小泉：海外メディアが日本を報道するときに裏取りしやすくなりますよね。

## なぜ国会議事録なのか？

小泉：活用方法を聞いただけでワクワクしてきますね。言葉は悪いですが、これはかなり遊べそうですね。国会議事録を対象にしたのはなぜでしょう？

高木：もともと興味があって、シビックテックのようなものを実施しようと思っていました。政治とは何か、理解したいと思っていましたが、誰が何を言っているのか、どのような議

論が行われているのかまったくわからなかったのです。選挙についてもよくわからない状況でしたが、これを使えば少し理解できるようになりました。

というのも、先日引越しをしたんですよ。引越しのタイミングで選挙がありましたが、街頭演説をしている人が何をアピールしているのかまったくわからないまま投票しなければならなかったんです。その点を改善すべく、ChatGPTのしくみを利用して、もう少し詳細に調査できるようにしたいと考え、開発に取り組みました。

議員さんの中には自身をPRする場がない方も多いと思います。しかし、政治家は我々のために頑張っているのですから、その努力を誰かが見える化しなければならない。そうすることで、一般の人も政治家が何をしているのか具体的に調査し、確認することができるようになることが大切だと思います。うちは儲からないかもしれないけれども、みんなが幸せになるなら。

小泉：それはすばらしい志ですね。今後はどういう方向への進化を考えていますか？

高木：県や市議会の情報が欲しいですね。地方議会の情報は勝手にスクレイピングするわけにもいかないので。

## シビックテックと生成系AIの関係

小泉：シビックテックも生成系AIを活用して変わるのでしょうか？

高木：今までシビックテックというと、正直なところ1日イベントなどで終わってしまっていたものが多かったんですね。完璧なプログラムを組むことができないということや、メンバーによるアイデアの良さなどで善しあしが決まるような状況がありました。しかし、生成AIであるChatGPTを使うことによって、そのレベルが大きく上がると思います。

だから、シビックテックという観点で言う

注2) <https://ideabox.automation.jp/>

と、1日のイベントで実現できることの質が大幅に向上しますね。最近のアイデアソンでは2時間ぐらい打ち合わせをしたあと、10分くらいでプレゼンテーション資料を作ることができました。要点をまとめるのが一瞬で終わるので、方向性を出すのがすごく簡単になります。

小泉：ChatGPTというのはインターフェースの革命だと思うんですね、自然言語で。

高木：そうそう、自然言語で、コンピューターと自然に話すことができる点が一番の革命だと思います。ChatGPTを使うことによって高齢者でも自然言語で使えるようなシステムを考えるといった、これまではまったくなかったことが可能になりました。

だから話をして、その話をプログラムが勝手に解釈して実行する。これができれば、ハッカソンでやったことが非常に簡単に商用サービスレベルのソリューションになってくると思います。

## これからのAI社会について

高木：日本がAIに全振りする方向なのが、個人的にはうれしいというか、やはりそれは重要ですね。

小泉：本当に。高木さんの話を聞くと、日本には逆転のチャンスがあると感じます。そのためには、たとえば肖像権などの守るべきものはしっかり守るべきですが、AIを活用していくための地盤づくりは必要だと思います。そして、オープンデータについても、文脈のあるオープンデータ、たとえば議事録などはたくさんあるはずですから、それを公開してほしいですね。過去のデータも意味があると思います。

高木：30年前はワープロが主流で、誰もがワープロがなくなるわけがないと思っていました。しかし、結局、ワープロはなくなってしまったんですね。一方ラジオは、放送の主流が

テレビへ移行した今もまだ残ってるじゃないですか。だから、それと同じように、AIでやるところとそうじゃないところが共存することになるでしょう。今、混沌こんらんとしていて感じていますけどね。

小泉：ネットでもバズってましたね。

混沌といえば、たとえばプロンプトエンジニアリングというものが現在注目されているのは過渡期だからですね。AIによる画像生成のプロンプトもそうなのですが、バッドノウハウバッドノウハウになるものだと思います。

高木：そうなんですよ！ 混沌こんらんとしてるからこそ、結構変わってくると思うんですよ。

## 最後に

小泉：Software Designの読者へメッセージがあればどうぞ。

高木：今回は、若い人向けに。今回の国会議事録検索(The Diet Search)プラグインを見て、こんなものもあればいいのって感じたものを若い人が新しく何かまったく別なところから作ってくれるといいと思います。プラグインを見ると、まだまだ日本のものは少し少ないんですよ。

小泉：私も何か作ってみたいと思います！

高木：もっと良いものを頑張って作りしたいと思います。

小泉：ほかに何かアピールしたいことがあればお願いします。

高木：動画のセミナーを開催します<sup>注4</sup>。これは、新たな挑戦の一環として行うものです。

小泉：高木さん、本日はありがとうございました。

高木：ありがとうございました。SD

注3) その場の問題解決にはなっても、ほかでの応用があまり効かなかったり、今後も使える保証がなかったりする手段。

注4) 次のURLで公開予定です。

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLV1kWaF2F78iaPUKuq-J91GN5sAVxep0e>